

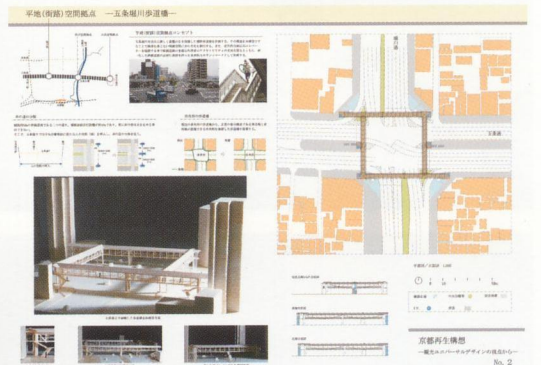
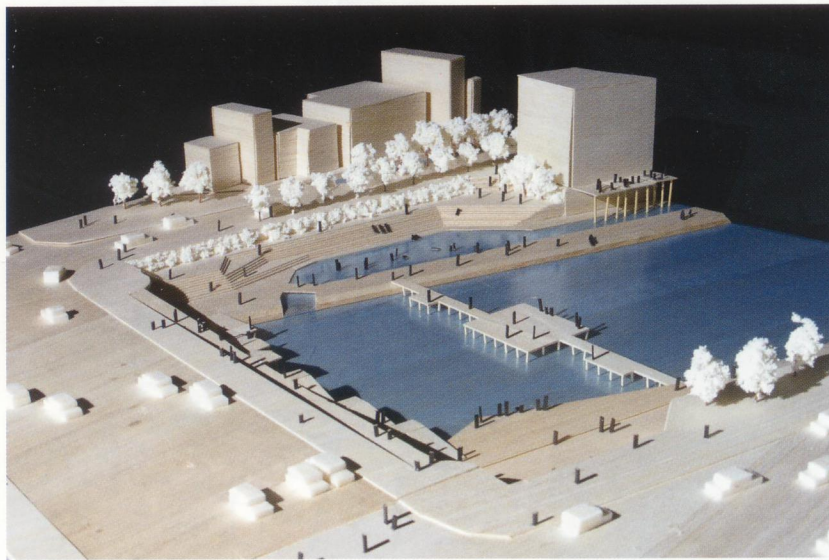
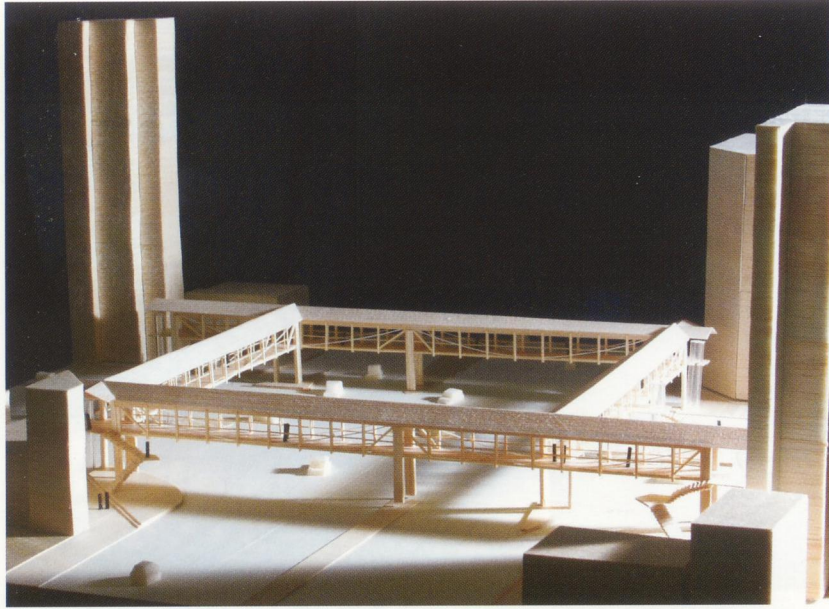


京都再生構想

観光・ユニバーサルデザインの観点から

土川泰明 (つちかわやすあき)

日本大学 理工学部社会交通工学科



京都は古都であり、また交通弱者にとっては多くのバリアを有する近代都市となっているのが現状である。本研究は京都の地形を切り口として京都のアクセシビリティを構築する。まず京都は平地空間、河川空間、山岳空間から構成されていると分析し、この3つが一直線上に存在する五条通を計画地とした。五条通は平地空間として碁盤の目を象徴する街路、河川空間として水文化を育む鴨川、山岳空間として清水寺を有する。そこで、五条通に観光ユニバーサルデザイン都市軸を提案する。そこには、平地（街路）空間拠点として木構造の歩道橋を、河川空間拠点として都市と鴨川との関係を、山岳空間拠点として山岳空間遺産のバリア対応施設の一つの可能性を清水寺で示し3つの空間拠点を計画する。

【講評】 君の調査と製作のエネルギーに脱帽。が、先ずパーク＆ライドを前提にして欲しい。さて五条堀川交差点の場合、京都には特に目立つ横断陸橋を廃止し、地下通路街+昼市とするの方が単なる通過施設に終らず何らかの第一拠点（溜り場）にし易いのではないか。次に五条鴨川は不定期の回遊イベント場ではなく、京野菜などの朝市として毎日の生活に密着した場+イベント場にする方が第二拠点として遙かに活気が出ると思う。また清水寺界限は単なる車椅子参詣施設ではなく、茶碗坂にある店々の「ひやかし」要素施設と抱き合わせて強調する方が第三拠点として人間臭い楽しさになると思う。味気のない京都再生になってしまわない様注意したい。今後の君の継続テーマとして期待している。

【審査員：沼田正雄】